



いわき けい いち
岩 脇 圭 一

いっ しん かい
一 津 会

一人親・生活困窮世帯の子どもに学習支援を

問 経済的に厳しい世帯の子どもたちに学習の機会を保障していくことが求められている。

平成28年から一人親家庭・生活困窮世帯の子どもを対象に学習支援事業が始まったが、現状と事業実施の効果、今後の取り組みは。

また、三重短期大学や三重大学と連携し、支える側の人材育成も大切であると考えているが、対象学年の拡大についての検討は。

答 一人親家庭は小学4年生から中学3年生まで、生活困窮世帯は中学生を対象に、学習支援や進学・進路相談支援を、民間事業者への委託により行っている。始まったばかりの事業であり、まだはっきりとした効果が見つかめる状況でないが、受講者は増加傾向で、いずれも60名の定員にほぼ達していることから、希望者が増加すれば、定員や実施場所についても検討していく。

小学4年生から中学3年生までの継続的な効果を見極めるには時間がかかるため、指導状況や理解度確認テスト等に基づいた分析結果に係る委託事業者からの報告をもとに事業を検証し、実施方法について改善すべきところは改善しながら、事業を継続する中で、対象学年の拡大についても検討していきたい。

●その他の質疑・質問●

- 津市公契約条例の制定について
- 実効性をいかに担保するか
- 条例制定後の検討のあり方は
- 津市総合計画基本構想・第2次基本計画の策定について
- 重点的な施策は何か
- 進捗管理はどのように行うか
- シティプロモーションについて
- 民間団体との連携を など



▲民間団体と連携して積極的なシティプロモーションを



かつら みつ びこ
桂 三 発

いっ しん かい
一 津 会

地域懇談会のこれまでの評価は

問 市長が公約に掲げ、平成27年10月からスタートした地域懇談会は、半年に1回ずつ開催し、現在5巡目に入っているが、これまでの評価検証について伺う。



答 これまで151回の地域懇談会を開催してきており、小中学校のエアコン設置、緊急告知ラジオ、高齢者の外出支援、小動物に対する獣害対策は、たくさんご意見をいただき、市の政策として実現した。また、各地域の課題として、小中学校等の教育施設の小規模修繕などのご意見は、一見、地域ごとの課題と思われるものも、地域共通の課題であることに気づき、通常予算とは別枠で対応した。

このように、それぞれ半年に1回という形で取り組みを進めており、大きな事柄から、各地域個別の事柄まで、地域懇談会という場で物事が前に進むという意味で大きな成果ではないかと考えている。

●その他の質疑・質問●

- ビジネスサポートセンターの成果について
- 職員採用試験について
- 公用車の運行管理について



▲平成29年4月に開設されたビジネスサポートセンター